

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人 宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11-86
自己評価作成日	平成28年 1月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように、『心』から『歓』び合える楽しく和やかな処になるよう、入居者様のペースで、日々の生活を支援させていただいています。
また、運営推進会議には多くの地元有識者の皆さんや地域包括センター職員等が参加して下さっており、行事報告や困難事例、事故報告に対し多くの助言をいただき、その助言を日々の支援に反映させることにより、サービスの質の向上につなげることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設して4年が過ぎようとしている。国道より少し入った高台にあり、窓から見える山並みや町並みの風景は季節の移ろいを満喫できる。管理者と職員は「心からうれしく心から喜びあえる楽しく和やかな処」という理念を作成し、ユニット名に「心」「歓」と付けるなど、事業所の熱い思いを感じることができる。利用者と職員は笑顔が多くコミュニケーションが取れており、利用者には自由に過ごしてほしい、自由にでき、何でも言える状況をつくっていきたく、笑いが絶えない仲良くゆったりできる場所となるよう一丸となって取り組んでいる。また開設時より自治会に加入し地域との交流を積極的に行い、地域に根ざした事業所となるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム集い

(ユニット名) 歓ユニット

記入者(管理者)
氏名 安藤 和雄

評価完了日 平成28年 1月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員は、入居者の信頼を得られる様に、喜怒哀楽を一緒に感じ合える関係づくりに努力しています。今後も理念に基づき“心”から“歓”んでいただき、安心した生活が送れるよう支援して行きます。入居から日の浅い方は、不安で一杯です。早く馴染んでいただけるよう取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者のグルーホームに対する強い思いを込めて「心からうれしく心から歓びあえる楽しく和やかな処」という理念を作成している。理念に沿ってユニット名を「心」と「歓」としている。職員採用時に理念について説明し、共感を得て共有している。また職員会では日々の利用者との関わりの様子を確認し合い実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開所以来自治会に入会しています。秋祭りには、地元太鼓台の見物や文化祭等、地域のつながりを大切にしており、交流を行っています。二ヶ月毎の自治会内の草刈りや災害避難訓練のお知らせもしています。</p> <p>(外部評価) 開設時より自治会に加入し、地域の行事などの情報を得て積極的に参加している。とうど祭りや秋祭り、文化祭のバザー、2か月に1回の草刈り、防災訓練などに参加して地域との交流を深めている。ボランティアによる浪曲や漫談、フラダンスを楽しみ、地域からの声かけで子供達の訪問が予定されるなど、利用者は楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人達や見学に来られた方、また電話での相談事について随時対応しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、家族や地域の自治会長・公民館長民生委員の方等に参加していただき、助言や多くの意見交換がなされています。いただいた意見や助言を基に、質の良いサービスが出来る様に活かしています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、自治会長、公民館長、民生委員、市議会議員、地域包括支援センターの参加を得て開催している。利用状況、職員異動状況、行事報告、職場内外研修、消防訓練、事故など詳細に報告し意見交換を行っている。職員も交代で参加し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市役所介護福祉課職員の方々との研修に参加し、質疑応答をしています。運営推進会議では、地域包括支援センターの職員も参加して下さり、困難事例や事故の改善策などの助言をいただいています。最近では、マイナンバー等の解釈について介護福祉課等にご指導をもらっています。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加し意見交換している。介護保険課職員とは利用者や家族についての相談や事故報告など行っている。また研修など情報交換を行っている。介護相談員の定期的な訪問があり、利用者と話をしたり利用状況など見られている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 禁止の対象となる行為に関して、市役所介護福祉課からの助言を基に、改善を即座に行っています。正面玄関は、自動式で内側から開きませんが、帰宅願望があつて玄関まで行かれる方については、職員が付添いで自由に出入り出来るようにしています。 (現在身体拘束者は、おりません)</p> <p>(外部評価) 身体拘束については、退院時に不穏な状況で転倒の危険があるため、職員間で話し合い家族の了解を得てベッド柵を使用したのが、畳部屋を造り馴染みの職員が対応することで改善した事例がある。研修では拘束について言葉かけや具体的な行為を学び、管理者は誰がいても問題ない対応ができるよう指導するなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やスタッフ会等での勉強会で、高齢者虐待について、学習を行っています。 管理者は、事業所内での虐待が起こる事のないように、日常的に注意を払っています。 包括支援センターの介護相談員の方々にも来ていただき入居者とお話の様子も伺ってもらっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ入居者で成年後見制度の利用をされている方はおりません。 事業所では、施設内での勉強会で学ぶ機会を設けています。また、研修での機会があれば参加するようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、料金やケアサービスについての考え方や取組方について、また事業所の対応可能な範囲についても重要事項の説明を行っています。 ご家族からの質問についても、疑問の残らないように努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には、意見箱を設置していますが、普段から信頼関係を大切にしています。面会時でのなかでも意見を聞き出せるように配慮しています。いただいた意見は、スタッフ会等で職員の共通の認識として話し合っています。 話し合った内容は、改善すべく取り組んでいます。 (外部評価) 面会時には職員から声をかけて利用者の様子や体調などこまめに報告し、家族から気軽に意見や要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。玄関には自由な意見が出せるように意見箱を設置している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 理事長や管理者は、職員の考えや意見を自由に発言できる環境作りを、常に心掛けている。 管理者は、職員の自由な意見を理事長に伝えていきます。 (外部評価) 毎月全体会とユニット会を開催し、日々のケアに関すること、介護計画、行事やヒヤリハットなどについて意見交換している。毎月の行事担当を交替して職員のアイデアや協力が得られる体制ができています。全体会議の後に内部研修を実施し、また外部研修にも積極的に参加して職員のレベルアップを図っており、意欲向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り参加してもらい、技量の向上に役立ててもらっています。各職員の希望や思いを大切に考えていると共に、公平で一定のルールに則った人事考課を毎年実施し、査定に役立てています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会東予地区研修に、積極的に参加しています。参加した研修は、研修報告書を作成提出し、全体会議で発表を行って共通の認識として役立てている。 「町の救命士」定期講習会に毎回参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各研修や講演が他職種の集まりでもあり、良い情報交換や情報提供の場となっています。この場を活用して質の向上にも役立てています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前アセスメントにて、本人の要望・困っている事等の把握に努め、サービス開始の段階で出来るだけ不安なく施設生活が始められるよう関係づくりに努めているが、入居を急ぐケースもあり十分とは言えない場合も多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前の段階で家族の要望や不安に思っている事をよく聞き、入居後本人に対し、家族と協力し支援が行えるよう家族とより良い関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居ありきではなく、まず本人と家族が何に困っているかを把握することに努め、本人と家族にとって今、何のサービスが必要か見極め、利用支援するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は入居者を介護される一方的な立場に置かないよう入居者の歩んで来られた昔の話やいっしょに歌を唄うことにより良い関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族を支援される一方の立場におかず面会時家族からアドバイスをいただくなど共に支えていく関係を築けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 散髪や買い物に関しても、本人の馴染みの店があれば出来る限りお連れするようにしている。 (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で聞き取ったことや、話し方、表情、笑い声など利用者の様子で馴染みの人や場所を把握している。把握した内容は連絡ノートに記録したりユニット会で報告して職員間で共有しており、わがままプランとして年1回、利用者の馴染みの場所への外出など実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作業レク等では、本人のレベルに応じて役割を分担し、入居者同士が関わりあえるように支援している。また、日常生活でも入居者同士の助け合いについては危険がないように見守り、場面により介助を行うなど臨機応変に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、地域の行事などで交流を深め、情報交換に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりが何を希望し何を求めているのかを把握するために、入居者に寄り添い把握に努めている。また、家族面会時に入居時になかった情報を得られた場合、フェイスシートに追加するなど、出来る限り本人本位の生活を送れるよう努めている。 (外部評価) 利用者との日々の会話の中で聞き取り、食事の様子や表情などで一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。思いの把握が困難な利用者は、表情やしぐさなどを目で見てくみ取ったり、日常生活の中での気付きを反映するなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前及び入居時に家族や本人から生活歴、生活環境などについて詳しく聞き把握に努めている。また、把握した情報については、フェイスシートを通して各職員が理解するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ユニット会で各入居者について気づいたことなど話し合い、チームとして総合的に情報を把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画とモニタリングは、ユニット会で職員全員の意見やアイデアを反映したものにしている。又、家族等の意見や要望については面会時等に近況報告した際、お聞きするようにしている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の思いや意向を聞きとり介護計画を作成している。職員はサービス実施内容を一覧表にして計画に沿った支援に努めている。サービス実施状況を色分けして支援経過に記録し、毎月のユニット会でモニタリング、担当者会議を実施し利用者の近況を話し合い、必要時には計画の見直しをしている。家族からは面会時や電話で要望を聞き取り、作成した介護計画は説明して確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の個別記録を基に申し送りを行い、職員間で情報を共有し、日々の実践及び介護計画につなげている。また、医療的なことについては、連絡帳を別に作成し情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望があれば、買い物や馴染みの店への外出支援や自宅への帰宅支援、冠婚葬祭の出席の為の送迎など臨機応変に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域社会の一員としてイベントや行事にできるかぎり参加し、地域の人々と触れ合うことで楽しい生活が送れるよう支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の受診時には、家族の協力を得て、出来 る限り看護師が同行し、入居者の情報提供や今後の対 応について医師や家族と相談を行うようにしている。	
			(外部評価) 入居時からのかかりつけ医を継続している。受診は家 族が同行し必要に応じて職員も同行している。受診後 は家族から情報をもらい共有して健康管理をしてい る。病床を持たない病院をかかりつけ医としている場 合は、入院ができる病院を2カ所決めてもらい緊急時 に備えている。往診を希望する場合は内科と歯科の往 診を受けることができ、適切な医療を受けられるよう 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤職員として看護師1名を配置し、介護職員の気づき や相談にすばやく対応できるようにしている。また、 入居者が適切な受診や看護を受けられるように報告、 連絡、相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合、情報提供表を病院へ提出する とともに、本人が安心して治療できるよう必要な情報 提供に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に重度化や終末期の対応について事業所で出来 る事、出来ない事について十分説明し、同意書に署名 してもらっている。	
			(外部評価) 看取りについての指針を作成し、利用者や家族の要望 にそって対応して行く体制である。常時医療行為が必 要な時は対応できないなど、事業所でできることでき ないことを入居時に説明し理解を得ている。現在まで に看取りの事例はないが、外部研修への参加や看護師 による内部研修を重ね、安心して最期を迎えられるよ う職員のレベルアップを図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応については、全体スタッフ会で看護師より介護職員に伝達している。また、毎月1名づつは市の救命講習会に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、年2回避難、消火、通報訓練を行い、運営推進会議でも自治会への災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) 年に2回、昼夜間を想定して内1回は消防署立会いのもと訓練を実施しており、消火設備の点検や緊急連絡網を実践してみるなど緊急時に備えている。2か月に1回救命講習に参加し、地震対策として共用スペースの家具を固定したり3日分の水を備蓄している。事業所は耐震構造のため地域住民の避難場所となっており、AEDを設置し自治会に情報提供もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ時、更衣時等のプライバシーの配慮はもちろん、日頃の言葉かけにおいても誇りや人格を尊重した言葉かけを徹底している。 (外部評価) 汚れ物は袋に入れて運び、排泄介助や入浴時は声かけや羞恥心に配慮した対応を行い、部屋に入る時はノックして入る、自分にされて嫌なことはしないスタンスで自然に当たり前の対応を実践している。また個人情報には外に持ち出さない、写真の掲載は使用の確認を取るなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声かけや本人の話をしっかりと聞いている。表情や行動を観察することにより、入居者の希望を尊重するように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の出来そうな事や希望を聞き、作業等を提供し一緒に出来るようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 口腔ケアや、髭剃り、ヘアカット、入浴、など声掛けを行い、おしゃれする楽しさを思い出していただけるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方に、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど、お手伝いして頂いている。副食は、刻みの必要な方には食べやすいように工夫している。	
			(外部評価) 食事は栄養面や衛生面を考慮して業者に委託している。配膳や後片づけなど利用者のできることは職員と一緒にやっている。行事の時は利用者の好みを取り入れたメニューを職員が調理している。利用者は外出に出かけたりおやつを手作りする等食べることを楽しみにしている。職員も一緒に同じ物を食べ楽しみな時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 外注によるバランスのとれた食事を提供している。水分量は決まった時間帯に、水分摂取をしていただけるように、管理、実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の能力に応じた口腔ケアを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自立している方以外は、声掛けを行い定期的にトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 本人からの訴えや利用者の様子などトイレサインを見逃さないようにして声をかけてトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援している。また食後やお茶の後、入浴前に排泄を促している。各トイレに鈴を付け合図で確認するなど見守りを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の入居者に対しては、起床時に冷水を飲んで頂いたり、朝食後に出来る限りトイレに座って頂くなど、排便を促す支援をしている。また、乳製品の飲用もすすめている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には最低でも週3回の入浴が出来るように支援している。また、本人の希望時や散髪後等は臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 週3回を基本として午後に入浴している。浴室はユニットバスで2方向から介助できるスペースがあり、シャワーチェアと浴槽台を設置し利用者全員が浴槽にゆっくりつかることができる。入浴の苦手な利用者には声かけに配慮して無理強いくことなく入浴している。入浴剤や柚子湯など入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各個人の生活リズムに合わせ、休息等の支援を行っている。また、体調や気分にも配慮し無理のない生活が送れるように配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的・作用について重要な薬については把握できているが、薬の後発品への変更等もあり、飲まれている薬を全職員が覚えるまでには至っていない。薬の服薬については飲み込むまで確実に確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割については、各個人の能力に合わせ、掃除や洗濯物たたみ、食器洗い等を担ってもらっている。楽しみ事に関しては、趣味嗜好がバラバラで一緒に楽しむということが難しいため、個別に対応しているが十分に時間が取れておらず、満足のいくものを提供しているとは言えない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 各個人の要望に合わせ、買い物や外出等の支援を行っているが、外出することにより帰宅願望や妄想が強くなってしまいう入居者もいる為、積極的に行えていない。	
			(外部評価) 気候や天気に合わせて敷地内を散歩し、玄関にテーブルを出しておやつを食べるなど外気にふれる機会を作っている。花見、祭り、ドライブなど季節に合わせて外出を楽しんでいる。また散髪や受診のあとに買い物したり、帰宅願望があるときは出かけて気分転換を図るなど、状況に合わせて出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 各個人の能力から判断し金銭管理が可能な入居者には自分で金銭管理を行ってもらっている。また、管理が難しい入居者に関しては買い物の際には、職員の見守りの下で本人が代金の支払いを行えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の希望に沿って、手紙の投函や受取、電話の取り次ぎ等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間が利用者にとって不快のないよう心がけている。室温等は室温計を参考に職員が調整している。生活感や季節感については季節ごとの行事を行ったり四季折々の壁画作りを入居者と共にコミュニケーションをとりながら行っている。	
			(外部評価) リビングは日当たりがよく明るい。一角には畳スペースを設け家庭的な雰囲気である。窓からは高台から見下ろす町並みの風景や山並みを眺めることができ、季節の移り変わりを感じることができる。テーブルを3か所に配置し利用者はそれぞれの場所で和やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内では、一人ひとりの入居者に合わせ仲の良い方を近くに居れる座席配置にしている。一人の時間を大切にしている入居者には、一人で過ごして頂き、居室での時間を大切にしている方には居室で過ごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く過ごして頂けるよう、馴染みの置物や、写真、寝具等を配置し、快適に過ごして頂けるように配慮している。	
			(外部評価) 居室はベッド、洗面台、整理タンス、寝具を常備している。利用者は家族の写真やテレビ、椅子、衣装ケースなど使い慣れた物を持ち込み、利用者一人ひとりに合わせて配置し居心地よく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 適切な場所への手すりの配置、バリアフリーにより安全に過ごして頂ける様配慮している。入居者のできるテーブル拭きや洗濯物たたみなどしていただいている。また、個々に合わせた整理整頓、環境づくりとしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11番地86
自己評価作成日	平成28年 1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように、『心』から『歓』び合える楽しく和やかな処になるよう、入居者様のペースで、日々の生活を支援させていただいています。
また、運営推進会議には多くの地元有識者の皆さんや地域包括センター職員等が参加して下さっており、行事報告や困難事例、事故報告に対し多くの助言をいただき、その助言を日々の支援に反映させることにより、サービスの質の向上につなげることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設して4年が過ぎようとしている。国道より少し入った高台にあり、窓から見える山並みや町並みの風景は季節の移ろいを満喫できる。管理者と職員は「心からうれしく心から喜びあえる楽しく和やかな処」という理念を作成し、ユニット名に「心」「歓」と付けるなど、事業所の熱い思いを感じることができる。利用者職員は笑顔が多くコミュニケーションが取れており、利用者には自由に過ごしてほしい、自由にでき、何でも言える状況をつくっていきたく、笑いが絶えない仲良くゆったりできる場所となるよう一丸となって取り組んでいる。また開設時より自治会に加入し地域との交流を積極的に行い、地域に根ざした事業所となるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

(ユニット名)

心ユニット

記入者(管理者)

氏名

伊藤 一徳

評価完了日

平成28年 1月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員は、入居者の信頼を得られる様に、喜怒哀楽と一緒に感じ合える関係づくりに努力しています。今後も理念に基づき“心”から“歓”んでいただき、安心した生活が送れるよう支援して行きます。入居から日の浅い方は、不安で一杯です。早く馴染んでいただけるよう取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 開設時に管理者のグルーホームに対する強い思いを込めて「心からうれしく心から歓びあえる楽しく和やかな処」という理念を作成している。理念に沿ってユニット名を「心」と「歓」としている。職員採用時に理念について説明し、共感を得て共有している。また職員会では日々の利用者との関わりの様子を確認し合い実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開所以来自治会に入会しています。秋祭りには、地元太鼓台の見物や文化祭等、地域のつながりを大切にしており、交流を行っています。二ヶ月毎の自治会内の草刈りや災害避難訓練のお知らせもしています。</p> <p>(外部評価) 開設時より自治会に加入し、地域の行事などの情報を得て積極的に参加している。とうど祭りや秋祭り、文化祭のバザー、2か月に1回の草刈り、防災訓練などに参加して地域との交流を深めている。ボランティアによる浪曲や漫談、フラダンスを楽しみ、地域からの声かけで子供達の訪問が予定されるなど、利用者は楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人達や見学に来られた方、また電話での相談事について随時対応しています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、家族や地域の自治会長・公民館長民生委員の方等に参加していただき、助言や多くの意見交換がなされています。 いただいた意見や助言を基に、質の良いサービスが出来る様に活かしています。
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、自治会長、公民館長、民生委員、市議会議員、地域包括支援センターの参加を得て開催している。利用状況、職員異動状況、行事報告、職場内外研修、消防訓練、事故など詳細に報告し意見交換を行っている。職員も交代で参加し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所介護福祉課職員の方々との研修に参加し、質疑応答をしています。運営推進会議では、地域包括支援センターの職員も参加して下さり、困難事例や事故の改善策などの助言をいただいています。 最近では、マイナンバー等の解釈について介護福祉課等にご指導をもらっています。
			(外部評価) 地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加し意見交換している。介護保険課職員とは利用者や家族についての相談や事故報告など行っている。また研修など情報交換を行っている。介護相談員の定期的な訪問があり、利用者と話をしたり利用状況など見られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 禁止の対象となる行為に関して、市役所介護福祉課からの助言を基に、改善を即座に行っています。正面玄関は、自動式で内側から開きませんが、帰宅願望があつて玄関まで行かれる方については、職員が付添いで自由に出入り出来るようにしています。 (現在身体拘束者は、おりません)
			(外部評価) 身体拘束については、退院時に不穏な状況で転倒の危険があるため、職員間で話し合い家族の了解を得てベッド柵を使用したのが、畳部屋を造り馴染みの職員が対応することで改善した事例がある。研修では拘束について言葉かけや具体的な行為を学び、管理者は誰がいても問題ない対応ができるよう指導するなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やスタッフ会等での勉強会で、高齢者虐待について、学習を行っています。 管理者は、事業所内での虐待が起こる事のないように、日常的に注意を払っています。 包括支援センターの介護相談員の方々にも来ていただき入居者とのお話や様子も伺ってもらっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ入居者で成年後見制度の利用をされている方はおりません。 事業所では、施設内での勉強会で学ぶ機会を設けています。また、研修での機会があれば参加するようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、料金やケアサービスについての考え方や取組方について、また事業所の対応可能な範囲についても重要事項の説明を行っています。 ご家族からの質問についても、疑問の残らないように努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関居は、意見箱を設置していますが、普段から信頼関係を大切にしています。面会時でのなかでも意見を聞き出せるように配慮しています。いただいた意見は、スタッフ会等で職員の共通の認識として話し合っています。 話し合った内容は、改善すべく取り組んでいます。 (外部評価) 面会時には職員から声をかけて利用者の様子や体調などこまめに報告し、家族から気軽に意見や要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。玄関には自由な意見が出せるように意見箱を設置している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 理事長や管理者は、職員の考えや意見を自由に発言できる環境作りを、常に心掛けている。 管理者は、職員の自由な意見を理事長に伝えています。 (外部評価) 毎月全体会とユニット会を開催し、日々のケアに関すること、介護計画、行事やヒヤリハットなどについて意見交換している。毎月の行事担当を交替して職員のアイデアや協力が得られる体制ができています。全体会議の後に内部研修を実施し、また外部研修にも積極的に参加して職員のレベルアップを図っており、意欲向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得や研修参加の希望があれば、出来る限り参加してもらい、技量の向上に役立ててもらっています。各職員の希望や思いを大切に考えていると共に、公平で一定のルールに則った人事考課を毎年実施し、査定に役立てています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会東予地区研修に、積極的に参加しています。参加した研修は、研修報告書を作成提出し、全体会議で発表を行って共通の認識として役立てている。 「町の救命士」定期講習会に毎回参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各研修や講演が他職種の集まりでもあり、良い情報交換や情報提供の場となっています。この場を活用して質の向上にも役立てています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 何方にも入居前には事業所を見学してもらって、雰囲気を体感してもらっています。次に本人や家族とお話を伺って意向や要望、不安材料をしっかりと聞いてから事業所としての回答をしています。 職員も良い機会ですから大切に受け止めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントシートに家族構成やご本人の活躍していたころのエピソードを、許される範囲で記入してもらっています。また、ここに至るまでの困っている事についても十分伺い、入手した情報で本人や家族の不安軽減になる様に努めながら、信頼関係を少しずつ積み重ねています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所見学をしていただいた際の情報と、本人や家族との会話での情報、介護保険を利用していた際の情報に基づいて総合的に考え、入居後も少しの間様子を見た後で、どんな支援が今必要であるかを話し合い判断して、プランに組み込んで実施しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者一人ひとりの人格の尊重と、それぞれが出来る事と出来ない事を見極め、出来る事の役割を持ってもらい、感謝しながら共に暮らす仲間としての関係を築き、張りのある生活が送れるように支援して行きます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの話しには、良く考えながら対応しています。本人からの要望があれば家族に早く取り次ぎ相談し、双方の関係を損なう事のないように十分な配慮をしています。しかし、なかなか溝が埋まらない場合もあります。職員は一生懸命に接していても出来ない事があります。家族の代わりになれない事です。家族の協力が必要な場面は、沢山あるのですが。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ここに至るまでの生活の中で、馴染みのある人や場所など、日々の会話の中で話題にしながら楽しく懐かしんでもらっています。また家族との外出や職員とのドライブも喜ばれています。 (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で聞き取ったことや、話し方、表情、笑い声など利用者の様子で馴染みの人や場所を把握している。把握した内容は連絡ノートに記録したりユニット会で報告して職員間で共有しており、わがままプランとして年1回、利用者の馴染みの場所への外出など実践に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で、入居者の皆さんの性格や相性を把握したうえで、協力し合ったり語り合ったり出来る環境作りを努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 様々な事情でサービスの利用が終了しても、本人や家族から相談事があった時は、情報提供などの支援を出来るだけ応えられる様に努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で、皆さん一人ひとりの思いを聞き出しながら把握出来るように努めています。 また、スタッフ会でも話し合い、プランにも取り入れながら出来るだけ本人の意向を提供出来るように支援をしています。	
			(外部評価) 利用者との日々の会話の中で聞き取り、食事の様子や表情などで一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。思いの把握が困難な利用者は、表情やしぐさなどを目で見てくみ取ったり、日常生活の中での気付きを反映するなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の家族からの情報や資料、日頃の本人との会話の中で、より多く新しい情報が把握できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活の流れ（朝・昼・夜間）に沿って、少しの変化も発見できるように、状況の把握に努めています。結果、少しの変化にも対応出来るように、職員間で話し合っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活の中での入居者のニーズや面会時での家族からの意向を参考に、職員の意見を出し合ってどんなサービスの提供が良いのかを考え介護計画を作成している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の思いや意向を聞きとり介護計画を作成している。職員はサービス実施内容を一覧表にして計画に沿った支援に努めている。サービス実施状況を色分けして支援経過に記録し、毎月のユニット会でモニタリング、担当者会議を実施し利用者の近況を話し合い、必要時には計画の見直しをしている。家族からは面会時や電話で要望を聞き取り、作成した介護計画は説明して確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の出来事は、個別記録に記し、申し送りを行い職員間の共有にしています。また、情報は介護計画につなげています。気付いた事は連絡ノートにも記入し職員同士が解る様にしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の要望に応じてサービスを行い、状況を判断しながら臨機応変に取り組んでいます。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 季節感を味わって頂けるように、イベントや行事には出来るだけ参加するようにしています。地域の方々との触れ合いを大切に考えています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族が希望する病院へ受診していますが、緊急 の際には、入院設備のある病院への搬送も視野に入れ 家族の承諾を得ています。受診は、家族の協力をお願 いしていますが、家族の都合もありますから、事業所 も状況に応じて対応しています。	
			(外部評価) 入居時からのかかりつけ医を継続している。受診は家 族が同行し必要に応じて職員も同行している。受診後 は家族から情報をもらい共有して健康管理をしてい る。病床を持たない病院をかかりつけ医としている場 合は、入院ができる病院を2カ所決めてもらい緊急時 に備えている。往診を希望する場合は内科と歯科の往 診を受けることができ、適切な医療を受けられるよう 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入居者の体調を観察しています。少しの変化も見逃さ ないように努めており、体調変化が解れば看護師に 連絡して、適切な判断や支持をもらっています。 職員会議での社内研修では、看護師が中心となって、 その時期に合った勉強会を行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、本人の状況提供表を病院に提供し役立 ててもらっています。頻繁に見舞いに行くことで安心し てもらい、病院からの情報も持ち帰って、退院後の ケアに役立てたり、生活環境作りに役立っています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期の対応については、契約の際に説明 し、家族にも納得の上で契約締結に至っています。 家族からそのような内容の話があった際は、事業所 での出来る事と出来ない事を説明しています。	
			(外部評価) 看取りについての指針を作成し、利用者や家族の要望 にそって対応して行く体制である。常時医療行為が必 要な時は対応できないなど、事業所でできることでき ないことを入居時に説明し理解を得ている。現在まで に看取りの事例はないが、外部研修への参加や看護師 による内部研修を重ね、安心して最期を迎えられるよ う職員のレベルアップを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 町の救急救命講習に参加し、AEDの使用方法や心肺蘇生法を学んでいます。緊急マニュアルも作成しています。 今年で2回目に入りました。繰り返し受講することで、技量を身に付けられるように努めています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練や消防訓練を定期的実施しています。落ち着いて避難できるように訓練の後には反省点や、改善点を話し合っています。 また、消防職員からの感想も今後活かしています。食料と飲料水の備蓄も整っています。 (外部評価) 年に2回、昼夜間を想定して内1回は消防署立会いのもと訓練を実施しており、消火設備の点検や緊急連絡網を実践してみるなど緊急時に備えている。2か月に1回救命講習に参加し、地震対策として共用スペースの家具を固定したり3日分の水を備蓄している。事業所は耐震構造のため地域住民の避難場所となっており、AEDを設置し自治会に情報提供もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの人格を尊重すると同時に、誇りやプライバシーを傷つけないように、一人ひとりに合った話題や話し掛けを試みています。 接し方についても職員同士の話し合いを行い、情報の共有をしています。 (外部評価) 汚れ物は袋に入れて運び、排泄介助や入浴時は声かけや羞恥心に配慮した対応を行い、部屋に入る時はノックして入る、自分にされて嫌なことはしないスタンスで自然に当たり前の対応を実践している。また個人情報には外に持ち出さない、写真の掲載は使用の確認を取るなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者との日頃の関わりを通して、お互いの信頼関係を築く事に努力しています。 本人の希望や思いが自己決定し易い声掛けや雰囲気、環境作りをこころかけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日の会話の中で、一人ひとりの思いを聞きながら、その日の体調や職員数等を考慮し、個別又は集団にて希望に添える様に努力し、支援を行っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の身支度・洗面は、出来るだけ本人さんにして頂き、出来ないところは、お手伝いしています。又、外出やイベント時には、家族さんが用意されたお洒落着や本人の好みを尊重し、良い思い出つくりが出来るようにしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 見た目や盛り付け方を工夫し、目でも楽しめ食欲が出るよう工夫しています。 机拭きから始まり、盛り付け・下膳まで個々で出来る役割分担を本人自ら理解し積極的にされています。	
			(外部評価) 食事は栄養面や衛生面を考慮して業者に委託している。配膳や後片づけなど利用者のできることは職員と一緒にやっている。行事の時は利用者の好みを取り入れたメニューを職員が調理している。利用者は外食に出かけたりおやつを手作りする等食べることを楽しみにしている。職員も一緒に同じ物を食べ楽しみな時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事摂取量、水分摂取量は記録に残していません。少ない時は、家族からの差し入れの物や、手作りおやつで摂って頂き、水分に関しては、お茶に少しの蜂蜜やムせて飲みにくい方は、トロミを付けて飲んで頂くよう工夫しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは、毎食後に声掛けを行い見守りの中で実施しています。その時嫌がる方は、時間が経っての声掛けや散歩を促しその後の実施と言うように時間を掛けてでも行うようにしています。 嬉しい事に家族から歯科受診で歯や歯茎の状態が良くなったとの報告もありました。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや時間を把握し、排泄時間を記録することで声掛けの誘導を行い、トイレで排泄出来るように努めている。立位困難な方でも排泄の仕方を忘れないようにトイレに誘導し、職員二人介助で座っていただいております、その甲斐あってか排尿・排便は、大方トイレで出来ている方もいらっしゃいます。	
			(外部評価) 本人からの訴えや利用者の様子などトイレサインを見逃さないようにして声をかけてトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援している。また食後やお茶の後、入浴前に排泄を促している。各トイレに鈴を付け合図で確認するなど見守りを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 腹部のマッサージや無理のない運動を行ったり、便秘気味の方には、水分を多めに摂取して頂くようにしています。また、乳製品を摂って頂く等もしていますが、それでも排便がみられない時は、緩下剤を頓服で服用してもらっています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の人達の体調や気分をみながら、その状態に合わせての入浴をしてもらっています。(清拭・足浴)入浴剤で着色して楽しんで入浴出来るように、工夫もしています。	
			(外部評価) 週3回を基本として午後に入浴している。浴室はユニットバスで2方向から介助できるスペースがあり、シャワーチェアと浴槽台を設置し利用者全員が浴槽にゆっくりつかることができる。入浴の苦手な利用者には声かけに配慮して無理強いすることなく入浴している。入浴剤や柚子湯など入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室内での安全、衛生面も気を付けながら、入居者の方が安心して休めるよう、一人ひとりに合った空間作りや本人の思いを尊重しています。また、季節に応じて温度や湿度等にも留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書には目を通し、薬の内容について理解するようにしています。説明書は、ケースに綴じていつでも確認出来るようにしています。症状の変化にも注意しながら様子観察も行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者の一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握し、その方が出来る事をしていただき、役割を持ってもらう事でハリのある生活を送ってもらえる様に支援しています。レクの他にも、皆さんに合った楽しみ方で気分転換をしてもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候や入居者の方の体調を見ながら、外への散歩や外気欲を楽しんでもらっています。地方際や行事等、長く生活されていた地域にも職員と一緒に出掛けられ、懐かしんだり楽しまれたりしています。 (外部評価) 気候や天気に合わせて敷地内を散歩し、玄関にテーブルを出しておやつを食べるなど外気にふれる機会を作っている。花見、祭り、ドライブなど季節に合わせて外出を楽しんでいる。また散髪や受診のあとに買い物したり、帰宅願望があるときは出かけて気分転換を図るなど、状況に合わせて出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない方が多いので、金銭は事業所にて管理しています。外食時には、希望するメニューを選んでいただいたり、パンの移動車が来た時には、食べたい品を本人が選んで食べていただき、皆さんと楽しまれています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族とお話ししたい時や、掛かって来た時には、いつでも取次いでいます。その際に、間に入って要件を聞いて伝えていきます。携帯を持参している方は、いつでも自由に話されています。賀状等は、出来る限り少しでも自筆の部分があるように、難しい方には塗り絵なんかもしてもらっています。届いた郵便物も見ていただき、差出人の事を話して下さり、会話も大きく膨らみます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居住スペース・トイレは、毎日掃除をしています。トイレ使用後は、きれいに後始末をし後の方が不愉快な思いをしない様に心掛けています。リビングでは、各自の思いに配慮しつつトラブルを回避しながら、カーテンを開閉して、採光・換気に配慮しています。壁面には、一緒に作った季節の物を飾っています。窓の外には、朝顔等の種をまいて花を楽しんでもらい、季節感を感じていただいています。</p> <p>(外部評価) リビングは日当たりがよく明るい。一角には畳スペースを設け家庭的な雰囲気である。窓からは高台から見下ろす町並みの風景や山並みを眺めることができ、季節の移り変わりを感じることができる。テーブルを3か所に配置し利用者はそれぞれの場所で和やかに過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 基本的には、入居者の皆さんの自由に任されています。気の合った方同士や、一人でリラックスしてもらったりするため、ソファを利用してゆっくりとくつろいでもらっています。自室では、ラジオを聞かれたり、片付け（衣類の整理）をされたり、横になって休まれたりとご自分のペースで自由に過ごされています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居心地よく安心して過ごして頂けるように、使い慣れた物や家族の写真を居室に置き、事業所での写真をフロア等に貼っています。衣類交換時には、お気に入り服等を持参してもらい、本人が自由に選んで着ていただいています。その際には、その服への愛着をお話ししてくれます。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、洗面台、整理タンス、寝具を常備している。利用者は家族の写真やテレビ、椅子、衣装ケースなど使い慣れた物を持ち込み、利用者一人ひとりに合わせて配置し居心地よく過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各入居者を職員が理解し、出来る事・出来ない事の把握に努め、個人の状態を見極め、自立した生活が送れるようにしています。ベッドの高さを調整したり歩行状態に合わせ車椅子や歩行器等への仕様を家族を交えて話し合っている。モップ拭きやおかずの盛り付け・お盆拭き、洗濯物のたたみ作業を各自の出来る範囲でしていただき、役割を持つての生き甲斐のある生活を送って頂ければと考えています。</p>	